



大図研京都支部総会のご案内

10月10日(金)

京都支部会員の皆様へ

支部総会を下記の要領で開催致します。皆様の積極的な参加をお願い申し上げます。

記

日時：10月10日(金) 午後7時から

場所：京大会館 217号室

(京都市左京区吉田河原町15-9) 電話 (075) 751-8311

京大会館への交通アクセス

- ・ 京都駅より市バス A2 のりば (206 系統) 「京大正門前」下車
- ・ 四条京阪より(南座向かい) (201 系統) (31 系統) 「京大正門前」下車
- ・ 三條京阪中央口より 京都バス (13・14 番のりば) 出町柳経由系統 「荒神橋」下車
- ・ 京阪電車 鴨東線 「丸太町駅」下車 徒歩約 10 分
- ・ 地下鉄烏丸線 「丸太町」駅下車 烏丸丸太町よりタクシーで 5 分

京大会館周辺地図は 4 ページをご覧ください

[目次]

大図研京都支部総会のご案内	...	1
大学図書館問題研究会第26回京都支部総会議案	...	2
京大図書館史こぼれ話 その三	廣庭 基介	5
大図研京都数珠つなぎ 第68回	清嶋 愛	6
2002年度会費納入のお願い	...	8

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：dtkk@rg7.so-net.ne.jp (大学図書館問題研究会京都支部)

URL：http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm

大学図書館問題研究会第 26 回京都支部総会議案

【第 1 号議案】2002 年度活動総括 及び

2003 年度 (2003.10~2004.7) 活動方針

はじめに

国立学校制度を廃止する国立大学法人法等が 2003 年 7 月 9 日の参議院本会議で可決され成立しました。法人化後の大学図書館関係予算の各大学への交付は、運営交付金として各大学ごとに一本の経費として配分される予定です。各国立大学図書館は予算確保を目指して、大学の中期目標・中期計画に図書館の目標や企画を盛り込むことに努力を傾注することになるでしょう。また、昨年 11 月に成立した改正学校教育法は、設置認可制度の大転換や、認証評価制度の創設、専門職大学院の創設、法令違反の大学の是正措置等を決めており、単に国立だけでなく、国公私大学の短大、高専にも適用されます。このように、評価が限られた資源の配分に結びつくというサバイバル的競争環境が文部科学省による統制強化を導くという構図が現実味を帯びてきており、大学の一部署でもある図書館の数値化しにくいサービスが、効率という名のもとに切り捨てられる可能性が出てきています。このような状況下において、現場の図書館員は、予算と人員の抑制という問題をかかえつつ、サービスの多様化、高度化を迫られています。このような時にこそ、図書館員ひとりひとりの専門的力が問われています。

個々の図書館員の能力のレベルアップをはかるためには、雇用形態を問わず、すべての図書館員が協力し合い、情報の交換や研修の機会が継続的に提供されることが必要です。またそのことが結果として、利用者へのサービス向上につながることを積極的に図書館界の内外へアピールしていかなければなりません。また、幅広い人的ネットワークを育み、利用者や書店・出版関係者とも積極的に交流し、良好な協力関係を築いていくことが必要です。

大学図書館問題研究会京都支部では、このような状況を踏まえ、図書館員のより高度な力量形成に向けて活動を展開して来しました。

1. 2002 年度活動総括

(1) 京都ワンディセミナーの開催と会員間交流

2002 年 10 月 5 日に京都ワンディセミナー「韓国における大学図書館のアウトソーシング」(共催：京都大学大学院教育学研究科図書館情報学研究室)を開催しました。講師として、金英貴氏(新羅大学助教授・京都大学大学院教育学研究科招聘外国人)をお呼びしました。2003 年 6 月 14 日には学術情報ワークショップ 2003 (summer)「学術情報流通の新たなステップ：学術文献宇宙とリンク機能の展開」に日本図書館研究会・マルチメディアと図書館研究グループ他との共催のかたちで運営に参加しました。6 月 28 日には京都ワンディセミナー「利用者の立場から見た図書館」(共催：京都大学大学院教育学研究科生涯教育学講座)を開催しました。始めに藤原由華氏(京都大学附属図書館)、大橋亜紀子氏(京都大学工学研究科・工学部物理学系図書室)に利用者教育の事例報告をしていただき、その後大学院生と図書館員、フロアを交えてのパネルディスカッションを行いました。

(2) 支部報

編集体制を強化するとともに、サイズを A4 版に改め、紙面を一新しました。執筆者の幅を広げること努めるとともに、支部委員が積極的に執筆することを心掛けました。また投稿規定を整備しました。

(3) ホームページとメーリングリスト

2003 年 2 月にホームページのデザイン、内容をリニューアルしました。

メーリングリストについては、支部委員会報告や行事の案内などコンスタントに情報を会員に提供するように努めてきました。

(4) 組織活動

会員数は 85 名 (2002 年 6 月現在) から 87 名 (2003 年 8 月現在) と微増しています。

しかし、今後、退職や異動による退会が予想されるため、あらゆる機会をとらえ、積極的に勧誘を努めるなど、引き続き、組織的な取り組みが必要です。

(5) 財政活動

財政活動については、支部委員会として毎月状況を把握するとともに、前年度に引き続いて積極的な会費納入の働きかけを行っていますが、2002 年度会費の納入率は 8 月現在で 64% です。

2. 2003 年度活動方針

(1) 研究活動のさらなる発展と会員間のコミュニケーションの重視

今年度も会員のニーズに応えた研究活動の充実をはかり、会員の専門的力量形成に役立てます。また会員間のコミュニケーションを促進するため支部報の発行、ホームページの充実など、一層の努力をします。

積極的に会員間の交流の機会をつくることに努めます。

(2) 支部報について

定期発行に努めます。

会員の多様なニーズに応え、各人のスキルアップに貢献できる内容になるよう努力します。

読みやすい紙面づくりを心がけます。

できるだけ多くの人に執筆していただけるよう努力します。

(3) 会員を増やす活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。特に若手の会員を増やし組織の若返りをはかることを重視します。

そのために魅力ある企画を立てるよう努力します。

(4) 会費を全員が前納します。

会員としての義務である会費納入を全員が確実に行いましょう。

財政活動を一層前進させるため、支部委員会において、毎回担当者から報告と提案を受け、全員で取り組みます。

また、個々の会員に積極的に声をかけ、会費納入をはたらきかけます。

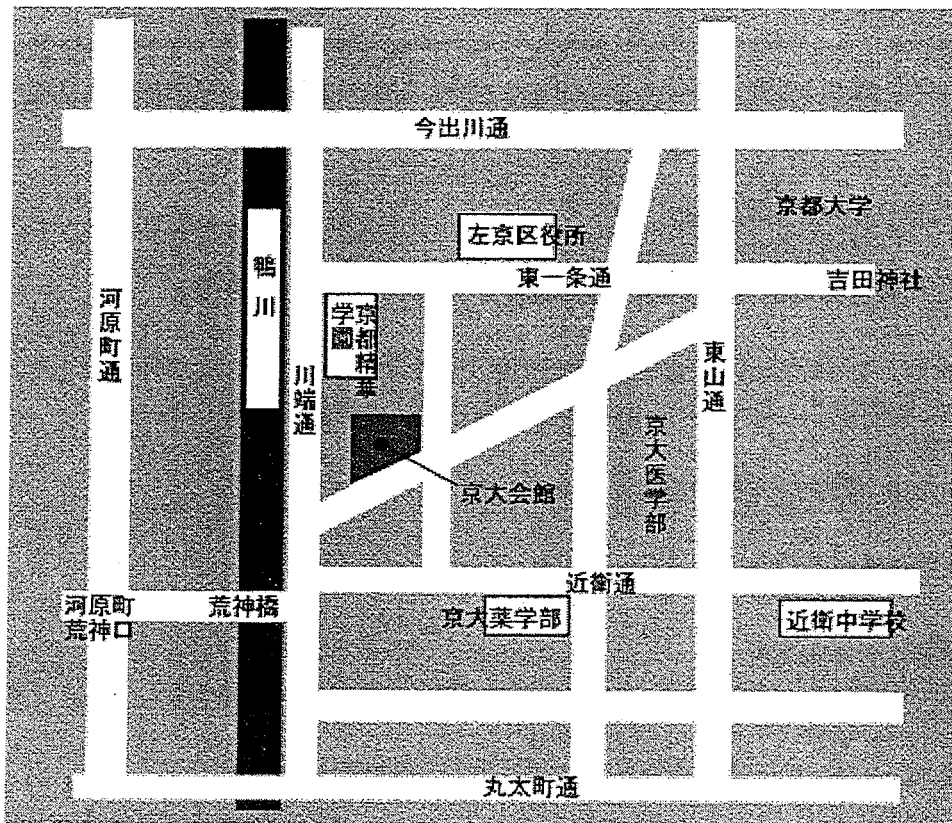
(以下の議案は当日配布)

【第2号議案】 2002年度決算報告活動総括 及び

2003年度予算及び会計監査報告

【第3号議案】 2003年度支部役員選挙

(京大会館周辺地図)



京大図書館史こぼれ話 その三

京大初代図書館長島文次郎博士と「老いらくの恋」事件

廣庭 基介

島・川田双方の父親同士は知己であった(2)

京大附属図書館初代館長・島文次郎博士の実兄・野口寧齊は明治の著名漢詩人の五本の指に入る作家であり、森鷗外とも交友があつたらしく、鷗外の有名な自伝的作品『ヴィタセクスアリス』の中に「原口安齊」(野口寧齊のもじり)の名で、モデルとして使われており、また、正岡子規とも病詩人同士として親交がありました。野口寧齊は、早稲田大学図書館や諫早市立図書館とも関係がありますので、改めて別に述べたいと思います。

さて『毛山探勝録』に関して驚くことは、本書に寄せられた題辞や序文、題詞、跋文の執筆者の豪華絢爛なことです。まず上巻から見ますと「毛山探勝録」という署名の揮毫を日下部鳴鶴(当時、太政官大書記官であり、明治の書家の第一人者)が筆をとり、題辞は時の太政大臣三条三条実美が明治11年1月に「為野口書記官」と為め書きをしています。これは常共が在職中にこの本を出す計画が出来ていたからでしょう。次に序文を参議兼大蔵卿(大蔵大臣)の大隈重信が4丁(8ページ)に亘る長文で、しかもそれを日下部鳴鶴の筆で書かせています。そして、拙稿にとって最も重要な事実となる二つ目の序文を、「老いらくの恋」の一方の主人公・川田順の実父である甕江・川田剛が5丁(10ページ)に亘って寄稿しているのです。天保13年(1842)生まれの野口松陽と、天保元年(1830)生まれの川田甕江が如何に親密な関係にあつたのか、徴すべき資料はありませんが、少なくとも、一方の著作に序文を献呈するほどの親密さであったことは確実なものです。「老いらくの恋」事件が島博士邸で起こる前に、博士夫人主宰の日本古典文学講座の特別講師に川田順を招き、招かれたという事実が、川田順と島博士が、双方の父親同士の結び付きによって、古くからの知己であったことを物語っています。

一方、下巻の巻頭は題辞が一つだけですが、それが何と伊藤博文の文と書なのです。明治12年当時、彼は正四位参議兼内務卿、議定官、法制局長官の地位にありました。また下巻巻末の題詞は長 夾(三洲の号で有名な広瀬淡窓の咸宜園出身の勤皇家で、長州の奇兵隊にも参加、後に川田剛と同時期に正院修史局一等修撰に任じ、文部省学務局長兼侍読をも歴任した明治初期第一級の漢詩人)が作文し、自ら染筆。揮毫を飾った跋文は太政官書記官として野口松陽より上級の地位に就いていた巖谷修、号は古梅、又は一六、つまりお伽噺で有名な巖谷小波の実父でした。巖谷家は近江国水口の加藤藩(3万5千石)の藩医でした。巖谷修はユーモアを好む人で、号の一六は、当時一と六の付く日が官庁の公休の日であったからと云われています。

先に豪華絢爛と云いましたが、明治の元勳や官僚ばかりなので、今の感覚では「なーんだ、世俗的な役人ばかりではないか」と嘲笑されるかもしれませんが、明治時代の初期は、学者も芸術家も官僚が兼ねている例が多く、学者や芸術家としてだけでは生活が苦しかったのか、或いは人材が少なかったのか、出来る人は両刀使いで行けたものか、夏目漱石も東大文科大学英文学科の講師に任じながら、小説も漢詩も作りました。疎水を設計し、その工事を監督した田辺朔郎も東大と京大の土木工学教室の教授をやりながら、漢詩と書道に堪能でした。京大初代学長・木下広次も、京大に来る前、東大法科大学教授でありながら、高級官僚である文部省専門学務局長を兼

ねていました。

一方、芸術家と官僚を兼ねた例を挙げると、最も有名なのは、文豪と言われた森鷗外の陸軍軍医総監を勤めており、前述した長三洲や日下部鳴鶴、巖谷一六もすべて書家、漢詩人でありながら、官僚でもあった人々です。このような例は、他にも沢山挙げられると思います。

島館長と川田順は年齢は11年の違いがありますが、どちらも明治初期の政府官僚を父に持ち、どちらも東大の出身で、さらに、島文次郎が大学予備門（後の第一高等学校）の学生時代から文芸雑誌作りに熱心で東大3回生の時には、高山樗牛・上田敏・笹川臨風・姉崎嘲風・塩井雨江・土井晩翠などと共に、東大文科大学学生・院生・教官に呼び掛けて、帝国文学会を立ち上げ、早稲田文学・三田文学に劣らない雑誌を目指して『帝国文学』を創刊し、この文学会の最初の編集室に森川町の島自身の家を提供していた程ですから川田も知っていたでしょう。（次号へつづく）

ひろにわ もとすけ（元京大図書館員）

連載コーナー 大図研京都数珠つなぎ 第68回

格言ノススメ？

滋賀医科大学附属図書館総務係

きよしま あい
清嶋 愛 さん

「ドクターズルール 425：医師の心得集」という本を、先日職場の図書館で発見しました。医師にまつわる格言集になっていて、なかなか興味深いものでした。例えば・・・

- ・ About the time you think you have seen it all, you will encounter some new unbelievable behavior.
- ・ When you don't know what to do, Do nothing!
- ・ Never take away hope.

といった調子です。読みながら、「図書館員編」もあるとおもしろいのでは、と思いついたが吉日(?)。私のような若輩者がおこがましいことではありますが、早速、自分用に格言を書き留めてみました・・・もちろん自戒をこめて。

その巻 忙しい時こそ、手を止めて、企画や計画を練るべし

「一段落ついたら」「この仕事が終わったら」「ひまになったら」、をあてするべからず。一段落つくまもなく次の仕事はやってきますし、ひまなんて、自分がつくりださないかぎり、うまれたりはしませんから。さもなくば、どんどんルーティンワークの渦にまきこまれていくことに・・・。

cf. “変革を継続させるには「未来の部屋」を大きくすることです。多くの企業は「過去の部屋」のほうが大きい。日常のルーティンワークはどんどん「過去の部屋」にたまっていくからです。しかし日常業務の20%を「未来の部屋」作り-すなわち企画・計画にあてると、変革が継続できます。”

(出典はどこかの(すみません忘れました)企業広報誌でした。)

その貳 まとめてやったほうが効率のいいこともあるが、「こまめにやる・ためこまない」

図書館に大量に来る郵便物（ダイレクトメール、寄贈資料 etc.）、大量に発生する書類、これは役に立つかもとどんどん複製される文献や参考資料、ひまになったら、とか、またあとで、と増えるにまかせておいたら、まちががなく大量の紙の渦に巻き込まれることに。週に1度など日を決めてしまって、こまめに分別して処理していくと年度末や異動の際に困りません。それに整理は頭の整理にもなります。

その参 「お金がない」「時間がない」を言い訳にしないこと お金と時間は、自ら作り出すべし

「お金がないから、買えない」「本当はやりたいけど、時間がなくて手が回らない」などと、何かできないことがあるときの修飾語や枕詞に使っていないでしょうか？ひどいときには、「本当は必要→でもお金がない→予算交渉するのをやめて、最初からお金がないから無理と決めつけてしまう（自粛モード）」になっていないでしょうか？予算がなければ、「どうやったら予算がもらえるか」、「何か不必要なものをやめて、代わりに購入する」、「しつこく要求しておけば、予算が余った場合にも買えるかも」などと、現実にはそう簡単にいかないかもしれませんが、いろいろ考えようはあるのではないのでしょうか？（お金がないといいつつ、予算を多めに立てている関係か、予定よりまだお金が使える、ということが私の経験ではたびたびありました。もちろん、今後もそういうことが当てにできるとはかぎりませんが。）時間についても、「格言その巻」と重なりますが、本当にやるべきことなら、その時間を生み出すための時間調整をして、スケジュールを見直す必要があるかと思われまます。

その四 図書館まわりの人たちとも仲良くしておく

図書館は図書館だけで成り立っているわけではなく、図書館は母体組織に属しています。世界は図書館員だけで成り立っているのではなく、利用者や教官、そして会計職員などの事務系職員もいるわけで、ちなみに私のいる係には係長と主任さんとが会計系の職員としておられますが、図書館員の思考と会計系職員の思考ってちがうのねと思うことがたびたびあります。そういうことを念頭におきつつ、図書館の人だけで固まって物事を考えるより、他部署の人と意見交換などしながら、考えていったほうが、物事もスムーズにいきやすいのでは？そのためにはやっぱり日ごろから、図書館まわりの人たちとコミュニケーションしておく、話もしやすいし、得することが多い、というのが実感です。

その伍 やっぱり知り合いは多い方がいい

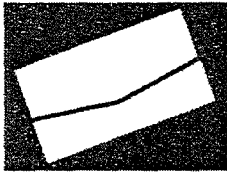
わからないことを質問したり、出張のときにお世話になったり、図書館員の知り合いが何かと多いと、心強く思うことや助かることが多々あります。図書館員ネットワークさまさまです。（恐るべし図書館員ネットワーク、と思うこともありますが・・・。）講習会や出張の際には、たくさん名刺をたずさえて配る。ひよんなことで、いつかもらった名刺が役にたつ日が来るかもしれませんから。

図書館員だけでなく、他のことにも当てはまりそうな処世術のような格言ができてしまいました。“よくよく考えると、しごくまっとうであたりまえなのだけれど、改めてはっきり述べられると思わず感心してしまう”、“日常をちょっとななめに見て、楽しんでしまう”、私にとって、格言とはそのような代物です。図書館員にまつわる格言など、みなさんも1つや2つすぐに思

いつかれるでしょうし、座右の銘のようなものをお持ちではないでしょうか。と、ここまで書きすすめて、ちょっとサーチエンジンで検索しましたら、すでに「レファレンスライブラリアン格言集」なるページがあることが判明しました。「こまった時の紙だのみ」「利用者の話を鵜呑みにするべからず」など、うなずける格言が。英語版ですでに” Librarian’ s Rule(?)” といったものがありそうな気もいたしますが、日本ではまだ全般的なライブラリアン格言集はないようですので、皆様もいかがでしょうか。

<http://ml.lss.tama.ac.jp/kakugen/kakugen-main.html>
レファレンスライブラリアン格言集

「大図研京都数珠つなぎ」に投稿なさいませんか。



京都支部では会員の皆様からの投稿をお待ちしております。
詳しくは大学図書館問題研究会京都支部ホームページ「支部会報」→
「投稿なさいませんか?」をご覧ください。

URL : <http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm>

2002 年度、2003 年度 会費納入のお願い

残暑の候、会員の皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。2002 年度大図研会費及び支部会費の納入状況をお知らせいたします。すでに 2002 年度（大図研会計年度 2002.07～2003.06）が終了していますが、納入率は六割程度と依然として思わしくない状況にあります。

会費納入率の低下は大図研の活動に影響を与えるだけでなく、支部セミナーなどにも悪影響を及ぼします。納入いただいていない会員の皆様におかれましては、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願いいたします。

また、既に新会計年度に入っていますので 2003 年度の会費につきましても納入お願いいたします。

記

大学図書館問題研究会会費	¥5,000
京都支部会費	¥2,000
合計	¥7,000

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員にことづけていただきますようお願いいたします。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904
大学図書館問題研究会京都支部

ご不明な点は京都支部財政担当・吉田（京都工芸繊維大学）までお願いいたします。
myos@kdm.jrnet.ne.jp